

第2類

文学部（通信教育課程）第2類では史学を主とした専攻領域を扱っており、所定の条件を満たした際には、「学士（史学）」の学位が授与されます。学生は、自らが希望する卒業論文のテーマを検討し、そのテーマに関係する専攻領域で求められることを踏まえ学修を進めるとともに、指導教員の指導のもとでテーマを掘り下げて卒業論文の執筆を進めていきます。

第2類で授与される学位の専攻分野と関係する専攻領域は次の通りです。

学士（史学）：日本史学専攻領域、東洋史学専攻領域、西洋史学専攻領域、民族学考古学専攻領域

所定の必要単位を修得したうえで、それぞれの専攻領域で求められること、卒業論文執筆の重点項目は次の通りです。

学士（史学）

[日本史学専攻領域]

日本史学専攻領域では、卒業時に学生が身につけるべき能力として下記のことを重点項目とし、学則に従って卒業要件を満たし、卒業論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、学士（史学）の学位を授与する。

1. 歴史学を中心として広く様々な分野に即して学問の方法を学びつつ、特に日本史学の分野において、通時代的な歴史像の把握の下に研究領域全般に関する知識を習得し、古文書などの史料から歴史情報を引き出すための史料批判・読解などの基礎的能力を具えるとともに、引き出した歴史情報を分析して新たな史実を実証的に掘り起こし、その成果を論理的に構成して発表することができる。
2. 日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする日本語の卒業論文を執筆し、さらに卒業論文のテーマに関連する領域については包括的な専門知識を有し、その領域の研究に貢献することができる。
3. 生のデータの信頼性を確認したうえで、それらを分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する基礎的な能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する一定の視野と洞察力をあわせもつことで、基礎的なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

また、卒業論文（卒業試験）は文学部共通の項目に加え、「史料の取り扱いが適切であり、方法が目的に適切である」点も審査項目とする。

[東洋史学専攻領域]

所定の要件を満たしたと認められる学生に、学士（史学）の学位を授与する。東洋史学専攻領域に関する卒業論文の執筆にあたっては、独創的かつ適切なテーマを自らが主体的に設定したうえで、学術的な研究文献や一次資料を積極的に読み解き、論理的かつ多面的な考察を重ね、それらを論文として表現することのできる能力が重視される。東洋史学専攻領域での学修を通して、東洋史学に関する学術的・専門的な事柄や能力に留まらず、日本社会や国際社会における政治・経済・社会・文化を歴史的・多面的に捉え、人々の多様な価値観を認識し理解する力を養う。

また、卒業論文（卒業試験）は文学部共通の項目に加え、「研究文献や一次資料を踏まえている」点も審査項目とする。

[西洋史学専攻領域]

西洋史学専攻領域では、西洋世界およびそこから強く影響を受けた地域の過去を学ぶことを通じて、現代の「国際社会」の多くの側面を構成する「価値観」を理解するために十分な知識を獲得し、ひいては歴史学を通して現代社会の深層を見つめる知見と能力を得ることを到達目標としてカリキュラムを編成している。学則に定める単位を修得し卒業試

験に合格した学生は、上記の目標を達成したとみなし、学士（史学）の学位を授与する。

[民族学考古学専攻領域]

民族学・考古学専攻領域では、卒業時に学生が身につけるべき能力として下記のことを重点項目とし、学則に従って卒業要件を満たし、卒業論文審査に合格した学生についてはこの能力を身に着けたものと認め、学士（史学）の学位を授与する。

1. 民族学、考古学、あるいは関連分野に関する基礎的知識や必要とされる語学・分析方法を習得している。
2. 個別の研究フィールドにおいて専門性の高い調査研究を展開し、その成果を卒業論文の執筆・発表などを通して論理的・効果的にプレゼンテーションできる能力を有している。
3. 上記1、2に示した能力を基礎として、大学卒業後の実社会の生活において、自ら能動的に問題を発見・分析・解決する実践的能力を有している。

また、卒業論文（卒業試験）は文学部共通の項目に加え、「フィールドワークも含めて、その研究方法が目的に適っている」点も審査項目とする。